

政 策 提 言 書

地域資源を活用した観光の振興

～地域経済の活性化に向けて～

令和7年3月6日

岡谷市議会

(担当委員会 産業建設委員会)

目 次

1	はじめに	1
2	岡谷市の現状と課題等	2
	(1) 岡谷市の人口	2
	(2) 岡谷市における観光客の動向	2
	(3) 広域別日帰り・宿泊別利用者数および観光消費額の動向	3
3	調査・研究の内容	4
	(1) 調査・研究の経過	4
	(2) 担当部局との意見交換	5
	(3) 団体・企業との意見交換	6
	(4) 行政視察	7
4	政策提言	11
	提言1 サイクルツーリズムの推進	12
	提言2 郊外都市公園の積極的活用	14
	提言3 天竜川流域における広域連携の推進	22
5	おわりに	24

1 はじめに

岡谷市は、太平洋へ注ぐ天竜川の源、諏訪湖の西岸に面しております。近くに八ヶ岳連峰、遠くに富士山を望むことのできる恵まれた自然景観とシルク岡谷の近代化産業遺産群等の歴史的文化的景観が存在する都市です。

岡谷市の観光※1は、隣接する諏訪の他市町村と比較すると県外からの呼び込みが弱く、観光消費額も低い状況にあります。また、従来から宿泊施設が少なく、ビジネスホテルが主流となっているため、諏訪地域に観光に来た県外者は、下諏訪町や諏訪市の温泉施設等に宿泊する方が多いのが現状です。

近年、人口減少が深刻化する中で、「交流人口の拡大」は地方創生・地域振興を進める上で主要テーマの一つとなっており、各地で観光振興の取り組みが活発化しています。観光ニーズが個別化・多様化する傾向にある中、今後、地域の観光を振興するには、その地域固有の多様な資源を活用したユニークな観光サービスを組み立てる必要があります。

そのためには従来の観光関連事業者だけではなく、様々な業種や住民等が幅広く参加し、地域づくりの取り組みと一体化して、自ら観光資源の掘り起こしやマーケティング・PR活動を行うなど、公民連携による観光推進体制整備の必要性が指摘されています。

そうした中、多様な人々が参加する地域主体の観光推進体制としてDMO※2が関心を呼んでおり、国はDMO構築を含む新たな地域観光戦略づくりを支援しています。

この「政策提言書」では、時代が求めている「観光ニーズ」や「ツーリズム」の現状分析、認知度を高めるための「地域ブランド戦略※3」の具現化、観光振興を推進する公民連携組織の研究や担い手の育成方法などを多角的に調査・研究した成果をまとめています。

一連の考察が、岡谷市における地域経済の活性化に役立ち、「地域資源を活用した観光の振興」に寄与することを願い提言するものであります。

【用語解説】

※1 観光

観光の定義は時代とともに変遷し、識者の間でも見解が異なっていますが、一般的には「観光行動」「観光旅行」「観光現象」の3つに大別されます。

観光行動：他の国や地域を訪ねて風景・史跡・風物などを見聞・体験すること。（狭義）

観光旅行：楽しみを目的とする旅行全般。（一般的な意味）

観光現象：人々による観光行動および関連する事象を含めた社会現象。（広義）

また、観光を英語表記すると次の2種類に分かれます。

サイトシーイング（sightseeing）：「現地の名所を訪れる活動」などと定義されます。

ツーリズム（tourism）：「関心を持たれる場所を訪れるための商業的な組織や運営」などと定義されま
す。ツーリズムを観光の上位概念とする説もあります。

※2 DMO（Destination Marketing/Management Organization）

「観光地域づくり法人」のことであり、観光庁は日本版DMOについて以下のように定義しています。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。

※3 地域ブランド戦略

地域ブランド戦略とは、来訪者や住民に対して、様々な資産が組み合わせられることで体験価値が提供され、その結果として来訪意向や居住意向が高まっていく仕組みを作っていくこと。

2 岡谷市の現状と課題等

(1) 岡谷市の人口

岡谷市の人口は、1980年に62,210人でピークを迎え、その後、人口は一貫して減少し続けており、2024年11月1日現在、45,366人と報告されています。この間、出生数の減少や高齢化の進行が顕著です。社会動態においては若年層の転出が多く、転出超過の傾向が続いており、観光の振興による交流人口の拡大が求められています。

(2) 岡谷市における観光客の動向

新型コロナの影響で令和2～4年にかけて落ち込んだ観光客数は、令和5年には回復傾向に転じたものの未だに戻り切っていない状況です。「岡谷市の観光振興における最大の課題は滞在人口率の低さである」（商業観光課長）との指摘通り、宿泊客が極端に少ない点が気になります。また、首都圏や中京圏からのアクセスが良い“地の利”がありながら、県外からの来訪数がもの足りない現状も認識しなければなりません。特に、冬季の観光客の落ち込みが著しく、抜本的対策が必要になっています。

塩嶺御野立公園と鳥居平やまびこ公園の利用状況

観光地名	年別 (年)	総数 (人)	四半期別利用者数 (人)			
			1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
塩嶺御野立公園	令和元	313,400	3,300	128,700	143,000	38,400
	2	64,500	2,500	10,700	26,000	25,300
	3	76,200	3,100	32,100	21,100	29,200
	4	99,300	3,400	34,600	34,400	26,900
	5	250,400	3,800	89,600	122,300	34,900
鳥居平やまびこ公園	令和元	134,300	900	57,800	57,600	18,000
	2	84,500	900	12,500	52,500	18,600
	3	115,800	900	39,400	48,900	26,600
	4	136,900	900	50,600	56,200	23,700
	5	127,400	1,700	45,600	62,500	17,600

出典：長野県観光部観光企画課

※上表について、市内の他の公園データの記載が存在しない。

(3) 広域別日帰り・宿泊別利用者数および観光消費額の動向

諏訪湖の周辺には温泉のほか諏訪大社や尖石遺跡など豊かな自然環境や歴史遺産が数多く存在し、それらを活かした県内有数の観光地として多くの観光客が訪れます。

しかし、諏訪地域は日帰り客の割合が高く、宿泊する観光客が少なく、1人当たりの観光消費額は県平均の4分の3程度にとどまっており、客単価の伸張が重要な課題になっています。岡谷市は温泉のある宿泊施設がないことや、主だった観光施設がないことから、特に1人当たりの観光消費額が少ないと推測されるところであります。

令和3年観光地利用者数

区分	日帰り (千人)	宿泊 (千人)	計 (千人)	宿泊の割合 (%)	観光消費額 (百万円)	1人当たり 観光消費額(円)
諏訪	6,948	1,682	8,630	19.5	23,050	2,671
県平均	36,676	15,913	52,589	30.3	183,286	3,485

出典：長野県観光部観光企画課

3 調査・研究の内容

(1) 調査・研究の経過

令和5年度

- | | | |
|------------------|-------------|---|
| 5月23日(水) | 協議会 | ・令和5年度年間計画について
・行政視察について
・政策提案・提言について |
| 8月3日(木) | 検討会 | ・政策提言について
・行政視察について |
| 8月29日(火) | 検討会 | ・行政視察について |
| 9月20日(水) | 検討会 | ・政策提言について
・行政視察について |
| 11月14日(火)～16日(木) | 産業建設委員会行政視察 | ・愛知県豊田市：鞍ヶ池公園
・静岡県浜松市：浜松・浜名湖ツーリズムビューロー
・静岡県静岡市：城北公園 |
| 1月19日(金) | 検討会 | ・行政視察報告について
・勉強会について |
| 1月23日(火) | 検討会 | ・商業観光課との勉強会
「地域資源を活かした観光産業の振興」について |
| 2月9日(金) | 検討会 | ・ブランド推進室との勉強会
「地域資源を活かした観光産業の振興」について |

令和6年度

- | | | |
|-----------------|-------------|--|
| 4月16日(火) | 検討会 | ・行政視察について |
| 5月27日(月) | 検討会 | ・行政視察(案)について |
| 7月16日(火) | 検討会 | ・行政視察について
・政策提言について |
| 7月24日(水)～26日(金) | 産業建設委員会行政視察 | ・山梨県南アルプス市：fumotto 南アルプス
・神奈川県相模原市：サイクルツーリズム
・神奈川県綾瀬市：ロケットツーリズム
・神奈川県小田原市：小田原宿なりわい交流館 |
| 9月13日(金) | 検討会 | ・政策提言について |
| 10月21日(月) | 検討会 | ・政策提言について |
| 11月7日(木) | 検討会 | ・政策提言について ・企業の方と情報交換 |
| 11月20日(水) | 検討会 | ・政策提言について |
| 12月12日(木) | 検討会 | ・政策提言について |
| 12月18日(水) | 検討会 | ・政策提言について |
| 1月9日(木) | 検討会 | ・第1回政策討論会議 |

1月24日(金)	検討会	・政策提言について
1月30日(木)	検討会	・政策提言について
2月4日(火)	検討会	・第2回政策討論会議

(2) 担当部局との意見交換

①商業観光課との意見交換会(令和6年1月23日)

岡谷市は日本の中心・信州の真ん中に位置しており、首都圏や中京圏における主要都市からのアクセスが容易で、主要都市を結ぶ結節点にもなっています。「シルク岡谷」として名をはせ、諏訪湖や天竜川、山々に囲まれた美しい景観、四季折々の祭りやイベント、うなぎ・酒・みそなどの食資産など、多様な地域資源を活かして市外からの観光誘客促進に努めてきました。今後は、諏訪湖サイクリングロードが完成し、諏訪湖スマートインターチェンジも完成することから、県外からの観光客を呼び込むチャンスと捉えています。岡谷市の魅力発信に努めていきますが、多様な層(ビジネスマン、女性、ファミリー、高齢者など)が楽しめる観光コンテンツを整備し、岡谷市の魅力を一元的に情報発信することで関係・交流人口の創出を図り、滞在期間を延長して、観光消費額を上げていくことが課題です。

近年はSNSによる口コミ情報が観光客の行動を左右する時代になってきており、情報発信の形態にも留意しなければなりません。

SNSフォロワー数(人)

令和6年1月現在

	Facebook	Instagram
岡谷市観光協会	2,026	1,892
諏訪観光協会	2,949	1,943
下諏訪観光協会	3,452	912

岡谷市商業観光課調べ

②ブランド推進室との意見交換会(令和6年2月9日)

第5次岡谷市総合計画(2019~2028年)における前期基本計画(2019~2023年)において、ブランド振興の成果指標を設定して、「岡谷ブランドブック」アクションプランの取り組みを行ってきました。

成果指標は、全般評価のほか、①美しい湖畔を体験できるまちへ②新しいシルク文化が生まれるまちへ③自然を体験し、ものづくりを楽しめるまちへ④健康的でセンスのいい食に出会えるまちへ⑤童画とアートに出会えるまちへとなっています。

岡谷市の認知度調査では、首都圏・中京圏の認知度は59.2%でした。約6割の人が知っていましたが、若年層や女性層の認知度が低く、地域ブランド振興の要諦である「認知度向上策」が今後の大きな課題です。地域ブランドイメージでは、首都圏での調査で「精密機械工業のまち」「諏訪湖畔のまち」というイメージが強かったです。今後は新たな“岡谷らしさ”を創出して共有し、認知度を高めていく必要があります。

(3) 団体・企業との意見交換

①三団体（連壮、連婦、高齢者ク）との懇談会（令和5年9月13日）

岡谷市の観光資源を活用した外国人向けパッケージツアーの企画、映画のロケ地としての魅力や価値を伝える取り組み、遊び場の不足解消に向けて若者向けアンケート調査を活用すべきとの意見、天竜川の水質を逆手に取ったユニークな提案、首都圏向けの観光情報メルマガの配信、小口太郎を顕彰するイベントの実施など、多くの示唆に富む意見が寄せられました。

②Park-PFI 事業を推進する地元企業との意見交換会（令和6年11月7日）

企業の担当者からは、「Park-PFI は地域活性化の重要な鍵となる可能性を秘めているが、その成功には行政と民間企業の協力・協働が欠かせない。行政は基盤整備や初期投資を通じて事業の基礎を整える必要がある。一方で、民間企業が積極的に参入できる環境を整えることも重要で、そのためには行政の柔軟な姿勢や思考の転換が求められる。また、短期的な支援にとどまらず、長期的かつ持続的な支援体制を構築することが重要である。行政と民間がそれぞれの役割を果たし、相互に補完し合うことで、持続可能なモデルの構築が可能となる」との意見をいただきました。

(4) 行政視察

① 鞍ヶ池公園民間活力導入事業 (Park-PFI)

令和5年11月14日(火) 愛知県豊田市

【概要】

豊田市の郊外にあり、かんがい池の鞍ヶ池(くらがいけ)を中心とした約95haの広大な面積にプレイハウスや牧場等の多様な観光施設を備えており、東海環状自動車道からのアクセスもできるハイウェイオアシス型の公園で、民間の活力を公園の運営に活用している。

鞍ヶ池公園は、遊具広場、動物園、植物園を備えた主に子どもの遊び場として昭和40年にオープンしたが、平成17年の愛知万博に伴い、大屋根広場等を整備して大人も楽しめる空間を備えた公園に改修し、平成22年には東海環状自動車道のスマートインター整備によりアクセスの向上を図ることで利用日帰り圏の拡大を行ってきた。

Park-PFIの活用やDB方式(Design Built:設計施工の一括発注による公設・民間運営)により、民間活力とそのノウハウを導入したことで、これまで豊田市外からの入園者が58%であったのが、民間活力導入後には公園施設の市外からの利用者の増加が顕著になっている。スターバックスによるカフェの運用や公園内のカーレーシングの開催等、公園の新たな魅力の創出に繋がっており、民間事業者のアイデアによるフォレストアドベンチャーは冬季でも人気があり、民間活力の導入については、これまでの「公園の整備」という発想から「使う公園化」を目指して、複数の企業から成る『鞍ヶ池公園ミライプロジェクト共同企業体』を選定し、下記のスキームで令和元年から公園の管理運営に活用しており、コロナ禍においても、公園の入場者・利用者の増加に繋がっている。公園全体のランドデザインでは、整備計画と公園のゾーニングは行政(豊田市)が行い、カフェ、サービスセンター、キャンプフィールドは民間提案を採用している。

【考察】

- ・鞍ヶ池公園は、指定管理とPark-PFIとDB方式をゾーンごとに対応しており、それぞれのメリットを活かした仕組みとした発想的な柔軟さが重要。
- ・郊外型の都市公園施設の整備にあたっては、Park-PFIやDB方式等の民間活力の導入は、公園の持っている様々な可能性を拓くことがわかり、岡谷市の公園、特に、鳥居平やまびこ公園、塩嶺御野立公園、岡谷湖畔公園等の整備において検討していく価値がある。
- ・民間活力の導入にあたっては、市民の意見を聞くことが重要で、マーケットサウンディングや市民アンケート等により市民意見を反映していくことが必要であるが、公募に際しては、パブリックコメントは必ずしも必要としていない。



鞍ヶ池公園

②Park-PFI 事業（城北公園）

令和5年11月16日（木） 静岡県静岡市

【概要】

城北公園は、静岡大学跡地に昭和60年に開園した約6.1haの公園で、維持管理費は年間4,136万円、そのうち樹木の手入れが2,940万円を占めている。

城北公園が抱える課題解決のため、民間活力を導入する Park-PFI（公募設置管理制度）を静岡県内で初めて採用し、民間事業者のアイデアと資金により、再整備と適正管理を行う計画。

Park-PFI は、都市公園において、飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を公募により選定する手続きで、事業者が設置する施設から得られる収益を公園施設に還元することを条件に、事業者には都市公園法特例措置がインセンティブとして適用される。特例は、設置管理許可が10年から20年になり、建ぺい率の拡大、看板等の利便増進施設の占用物件が設置可能で、公園再整備のイニシャルコストに関する資金モデルは、広場や園路等の公共部分の整備5千万円、カフェ等の収益施設整備1億5千万円とすると、市が全てを実施した場合は2億円になるが、この制度の活用により、公的資金は3千万円となり、残りは民間資金とし、公的資金の50%は国債の対象となるものである。

【考察】

- ・岡谷市では、公園利用者が減少傾向にあり、市民ニーズや地域の意見等を踏まえ、より一層の魅力ある公園づくりが求められている。特に鳥居平やまびこ公園や岡谷湖畔公園はポテンシャルの高い公園であることから、早急に Park-PFI 等による活性化を検討する必要がある。
- ・街中にある公園は、特有の様々な課題・問題が起こることが分かった。特に、市民生活に溶け込んだ公園の場合、公園周辺の市民の愛着・思いが強く、周辺の市民意見と、周辺市民以外の市民意見が真逆の内容も多く、市民意見の集約をどのように進めていくか、事業実施する施設の場所によっては、思うような事業の実施が進まないことも見受けられた。
- ・Park-PFI の導入は、民間資本と民間事業者の事業ノウハウの活用という点においてはメリットがあるが、公園の公共性から公平性という部分では十分な配慮が必要である。民間事業者の公園に対する公共的な貢献を、どの様に担保しつつ、事業者のビジネス活動を行なっていくのか、そのバランスと調整が重要になってくる。



Park-PFI イメージ

③サイクルツーリズム推進プラン

令和6年7月24日（火） 神奈川県相模原市

【概要】

相模原市サイクルツーリズム推進プランは、観光振興計画や自転車活用推進計画の他、オリンピックレガシー創出のための基本方針に位置付けられたサイクルツーリズムの推進を図るため、令和4年11月に策定された。サイクリストが生み出す効果として、経済効果（サイクリストによる地域での消費活動の創出）と賑わいによる地域活性化（経済効果、交流人口の増加）、都市プレゼンスの向上として、シティプロモーション（地域のブランド化、サイクリストによる発信）とシビックプライド※4の醸成としている。

サイクルツーリズムを実施するにあたり、事業環境分析を実施し首都圏在住サイクリストへWEB アンケート、相模原市を走行するサイクリストへ現地アンケートを実施し、ターゲット層を明確にしたうえで、目的別施策展開を実施している。

具体的には5つの主要事業（コース開発・発信事業、サイクルステーション整備事業、立ち寄りスポット魅力創出事業、サイクルツーリズム発信事業、サイクリスト誘客イベント事業）を行い、車両の整備場所や休憩施設等のハード整備をはじめ、コース開発やイベント等のソフト整備にも力を入れ受け入れ態勢の構築に努めている。

【考察】

- ・サイクルツーリズムを進める中で、事業環境分析や市場選定といったマーケティング視点をを用いることが基本的な部分と理解しつつ、「シティプロモーション」や「シビックプライド」といった、民間・利用者・市民と連携を図る中で更なる魅力の向上等様々な相互作用を作ることが重要。
- ・サイクルツーリズム事業を推進する中で補助金にも力を入れており、サイクルサポートステーション事業・立ち寄りスポット創出事業等により地域全体で機運の醸成を図っている。
- ・計画策定にはマーケティング手法を活用していたが、ターゲットの設定等の本質的な部分やビジョン等に係ることは庁内で策定しており、庁内に専門的な知識を持った人を適所に配置して事業に取り組んでおり、適材適所の必要性を感じた。
- ・岡谷市を含む2市1町の諏訪湖サイクリングロードが令和6年4月に開通した。今後、地域の活性化を図るには、スワイクサイドオアシスの整備・充実や公民連携による積極的な取組み、そして岡谷市サイクルツーリズム推進プランの検討・策定が必要と感じた。

【用語解説】

※4シビックプライド

地域や自治体に対する誇りや愛着、地域社会に貢献する意識を指します。自分自身が地域の構成員として、自分たちの住むまちをより良いものに、そして誇れるものにしていこうという思いが含まれています。

参考 <相模原市のサイクルツーリズム推進事業補助金制度>

①サイクルサポートステーション整備事業補助金

本来の施設設置目的に沿った利用の有無に関わらず、サイクリストが走行途中で車両整備、トイレ、水分補給などの支援を原則無償で受けることのできる施設。また、店舗の種別に関わらず、サイクリストの求めに応じて工具等の貸し出しサービスを提供することができる施設が対象。(補助率 10/10、上限額 6 万円)

②立ち寄りスポット魅力創出事業補助金

サイクリングにおける目的地となり得る施設、食事や水分補給などのために気軽に立ち寄ることができるサイクリストのための休憩施設やそれに準じる施設。また、飲食店やコンビニエンスストア等、環境整備や魅力向上によりサイクリストによる消費活動が期待される施設が対象。(補助率、上限 3/4 額 15 万円)

4 政策提言

産業建設委員会では、担当部署や、団体・企業等との意見交換会、行政視察を行い、岡谷市の課題について議論を重ねてまいりました。

その結果、岡谷の観光資源を活用した「サイクルツーリズムの推進」と「郊外都市公園の積極的活用」「天竜川流域における広域連携の推進」について、次のとおりまとめました。

提言 1 サイクルツーリズムの推進・・・・・・・・・・ P12

【提言事項】

- (1) サイクルツーリズム推進プランの策定
- (2) 自転車活用推進公民連携協議会の設置

提言 2 郊外都市公園の積極的活用・・・・・・・・・・ P14

【提言事項】

- (1) 塩嶺御野立公園におけるコンセッション方式の活用
- (2) 岡谷湖畔公園における Park-PFI の活用

＜参考事例＞ 郊外都市公園を活用した各種ツーリズム

- (1) ペットツーリズム
- (2) ウェルネスツーリズム
- (3) バードウォッチングツーリズム

提言 3 天竜川流域における広域連携の推進・・・・・・・・・・ P22

【提言事項】

- (1) 「天竜川しなのサミット」の開催

提言 1 サイクルツーリズムの推進

(1) 現状

サイクルツーリズムとは、自転車を活用した観光です。自転車を活用して地域の観光資源を楽しみながら、環境に優しい移動手段で地域の自然景観、文化、歴史を体感し、観光地の隠れた魅力を発見する、古くて新しい観光の形として注目されています。

また、自転車利用者の宿泊や食事、土産購入を通じて地域経済の活性化にも寄与します。持続可能な観光の形態として環境負荷を抑え、地域住民と観光客の交流を促進する役割も担っています。環境問題や健康増進、地方の過疎化、クルマ依存の弊害など、さまざまな課題に直面している現代社会において、サイクルツーリズムは持続可能なまちづくりに大きく貢献できるものと考えます。

(2) 効果

①観光資源の掘り起こしと地域の活性化

サイクルツーリズムは、有名な観光名所や交通の便が悪い地域にも新たな価値を見出すきっかけとなります。短時間で巡れる小規模な施設や自然風景、街並みを楽しめる裏道や街道はサイクリストにとって魅力的で、厳しい坂道や山道も挑戦を楽しむ人々に人気のコースです。「のどかな風景や自然の中を走る楽しさ」を活かし、地域の魅力を再発見し、価値を高めることが可能です。また、遠方からの観光客が交流人口を増やし、地元への親しみを育むことで地域活性化にも貢献します。

②健康促進

自転車による適度な運動が、健康維持やストレス発散に効果的なことはよく知られています。体力に自信のない方でも自分のペースで移動ができ、有酸素運動により、生活習慣病予防や免疫アップにつながります。その他ダイエット効果、下半身の筋力向上、持久力向上やメンタルヘルス改善にもつながります。

③環境にやさしい

自転車は排気ガスを出さないので、環境保護への取り組みにもつながります。車での移動に比べ環境にも優しく、交通渋滞を起こしにくいいため地域への負荷も少ないのが大きな利点です。サイクルツーリズムは、二酸化炭素の排出を抑え、低炭素化による持続可能な観光を実現することができます。

(3) 課題

①人的資源の充実

多くの自治体で不足しているのが自転車に精通したコーディネーターやツアーガイドなど、サイクルツーリズムを現場レベルでサポートできるサイクリストと地域住民の両方の目線を持つ人材です。こうした民間の力を活用した人材の育成・確保が成功のカギとなります。

②交通安全対策を含めたインフラ整備

自転車に安全安心で優しいインフラを整えているかは非常に重要であり、十分な幅の路側帯や進行方向を示す標識、走りやすい路面状況などのハード面の整備が必要です。また、レンタサイクルやメンテナンスができる施設、わかりやすいコースマップやルート案内、サイクルラックが設置されているコンビニエンスストア・商店などの休憩施設、高価な自転車を安全に保管できる宿泊施設などが必要です。

③地域の理解と協力体制

日本では自転車活用推進の重要性が高まり、2017年5月1日に「自転車活用推進法」が施行されました。これにより自転車活用推進本部が創設されたことで、国全体で総合的、且つ計画的な取り組みが行なわれています。岡谷市では、諏訪市・下諏訪町と連携し「諏訪湖周自転車活用推進計画」を策定して、住民や関係団体や行政が一体となって、自転車ネットワークの強化や活用促進を目指しています。さらに、長野県においても、「諏訪湖周自転車活用推進協議会」を発足させています

自転車によるまちづくりに向けては、その意義を地域住民が理解し、サイクリストを歓迎する雰囲気を作っていく必要があります。それには行政による十分な説明や意見交換の他、住民へ自転車利用を促すことや、積極的に走ってもらう取り組みが大切で、その過程で交通ルールの理解を深め、街の良さの見直しや課題の共有にも繋がっていきます。

【提言事項】

(1) サイクルツーリズム推進プランの策定

①アンケート調査の実施による事業環境分析

- ・ 諏訪圏域を中心とした Web アンケートと岡谷市内を走行するサイクリストに対するアンケート調査の実施
- ・ マーケティング手法のセグメンテーション（区分）によるターゲット層抽出
- ・ ライトユーザー層とコアユーザー層の分析
- ・ 他市町村とは違う戦略の差別化を図り、岡谷市独自のポジションを確立

②サイクルコースおよびサイクルステーション等のインフラ整備

- ・ 既存サイクルマップの更なる有効活用
- ・ 情報をアプリ化し利便性を向上
- ・ サイクルオアシス、サイクルステーションの整備
- ・ 民間施設を活用した立ち寄りスポットの設置
- ・ 補助金制度等による支援

(2) 自転車活用推進公民連携協議会の設置

自転車活用のさらなる発展と地域活性化に向けた官民一体の取り組みを推進するために岡谷市独自の「自転車活用推進公民連携協議会」の創設

提言 2 郊外都市公園の積極的活用

～～ 都市公園施設における民間主導の制度の活用 ～～

公園等の公共施設の管理・運営に関する官民連携のこれまでの取組みとしては、指定管理者制度が岡谷市においては、一般的に活用されていました。

しかしながら、岡谷市の都市公園を、これまでの様な「管理する公園」から「人を呼び込む(魅力ある)公園」としていくために新しい魅力的なコンテンツを提供して、来園者の増加を促し、人と人とが交流し、楽しみ、且つ、ワクワクできる公園づくりを推進していくには、民間活力とそのノウハウを柔軟に活用できる官民連携による制度が不可欠となっています。

また、魅力ある公園づくりに向けて民間の積極的な参入を促していくには、既存の公園を利用している市民や地域住民との軋轢を最小限にして、民間運営の自由度が可能な限り保障されることが必要であることから、民間参入によるメリットが最大限に発揮できる環境として郊外にある公園が適しており、また、民間の参入による公園づくりが相応しいと思われる公園を対象として、その公園の特性と用途に適する官民連携の手法を用いた提言をすることで岡谷市の都市公園におけるこれからの再開発事業の官民連携のモデルケースとすることを目指しています。

塩嶺御野立公園：

塩嶺御野立公園にある塩嶺閣は、令和6年度の廃止が決まっており、解体を視野にいたれた今後の公園利用が検討されていますが、この塩嶺閣を含めた塩嶺御野立公園に新たな魅力を創出する再開発スキームの可能性として、民間事業者の参入の可能性を調査・検討をすることが、塩嶺閣の解体に向けた最終的な判断の前に必要と考えます。

岡谷湖畔公園：

諏訪湖サイクリングロードの開発と諏訪湖インターチェンジの開通に伴い、岡谷市の新しい観光資源として、交流人口の拡大と滞留時間の増加を目指した民間主導の魅力的な公園づくりが期待されていますが、これまでとは異なる官民連携の手法を活用して岡谷湖畔公園の再開発を考えていくことが望まれています。

1 塩嶺御野立公園

(1) 現状

塩嶺御野立公園は、八ヶ岳中信高原国定公園内に位置し、四季折々のすぐれた自然に恵まれた環境の中で、岡谷市塩嶺野外活動センターが1985年(昭和60年)に建設されて以降、これまでに多くの市民の憩いの場として利用されてきました。しかし、施設の老朽化や訪れる人の減少等で公園の管理運営が大きな課題です。

一方で、塩嶺御野立公園は、「小鳥の森」の指定や「日本の音風景100選」選定に加え、「日本一短いお祭り」である塩嶺御野立記念祭が行われるなど特徴ある地域資源であり、新たな有効活用策を探り当てなければなりません。

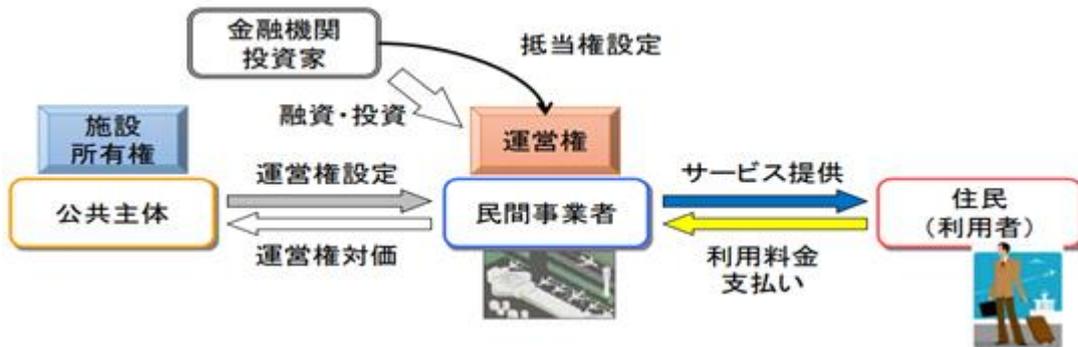
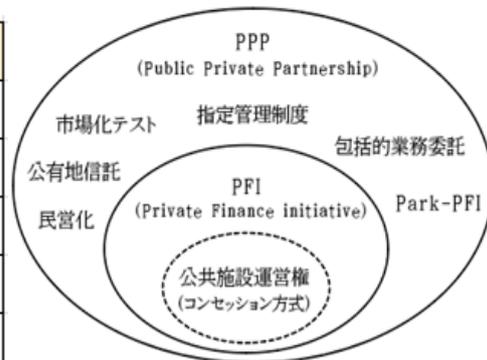
【コンセッション（公共施設等運営権）方式とは】

行政と民間が連携し、公共施設の価値を高めながら効率的な運営を実現する仕組み。

行政の負担を軽減しつつ、利用者にとって質の高いサービスを提供することで持続可能な公共サービスの提供に貢献することが可能。また、指定管理者制度のPFIの一つとなる制度として利用料金の徴収を行う公共施設において、施設の所有権を公共主体が有したまま施設の運営権を民間事業者に設定する方式。

【コンセッション方式の概要】

項目		PFI 独立採算型	コンセッション
収益	余剰配分	一部可	余剰収益配分可
	運営対価	×	対価を収益化
施設 整備	新築	○	×
	改築	○	×
	修繕	業務内容に含めることが可能	



【コンセッション方式により促される効果】

- ・ 管理者…運営権設定による対価取得、老朽・耐震化対策の促進、技術承継の円滑化
- ・ 事業者…地域の事業機会の創出、事業経営での裁量権の拡大や資金調達円滑化
- ・ 利用者…民間事業者の自由度の高い運営による低廉で良好なサービス等の享受

2 岡谷湖畔公園

(1) 現状

諏訪湖の周辺には、マレットゴルフ場、岡谷湖畔公園、多目的広場などがあり、多くの市民が憩い、また、マレットゴルフや野球などのスポーツを楽しむ場所になっています。しかしながら、岡谷湖畔公園周辺には現在のところ休憩施設や木陰の憩いの場所などがなく、特に夏の暑い期間は涼と軽食が可能な場所を求める強い要望があります。

令和6年4月の諏訪湖サイクリングロードの全線開通と令和7年に予定されている諏訪湖スマートICの開通により、今後、諏訪湖を中心として多くの観光客が訪れることが期待されており、岡谷湖畔公園は岡谷市の観光振興に向けた中核的な拠点の一つになっていくポテンシャルを秘めています。

これまで市民の憩いの場であった岡谷湖畔においては、その公園が持っている魅力を増進することで来園者の満足度を向上させ、「管理する公園」から「人を呼び込む(魅力ある)公園」への転換が必要だと考えます。

(2) 活用

岡谷湖畔公園における施設整備と公園の管理運営を、市民が憩い、楽しむ公園としてだけでなく、外から人を呼び込んで交流人口の拡大に繋がる公園として持続可能なものするためには、これまでの指定管理による公園管理の手法から、Park-PFIを導入することにより、民間活力とそのノウハウを更に活かすことができると考えます。

例えば、諏訪湖を眺望でき景観を損ねない環境でのイベントなどの開催が可能な簡易屋根付き休憩施設の設置、コンテナショップ等による飲食関連施設(休祝日主体)の整備、ドッグランなどペット同伴ツアーが楽しめる場所の確保、首都圏からの誘客を促すオートキャンプ場の設置などが望まれます。

民間活力の導入と情報発信力の強化によって、諏訪湖周の水辺空間を交流人口拡大に向けた新たな観光資源としていくことが可能となります。

<岡谷湖畔公園における整備のイメージ>



屋根付き休憩施設



オートキャンプ場



コンテナショップ



ドッグラン

【提言事項】

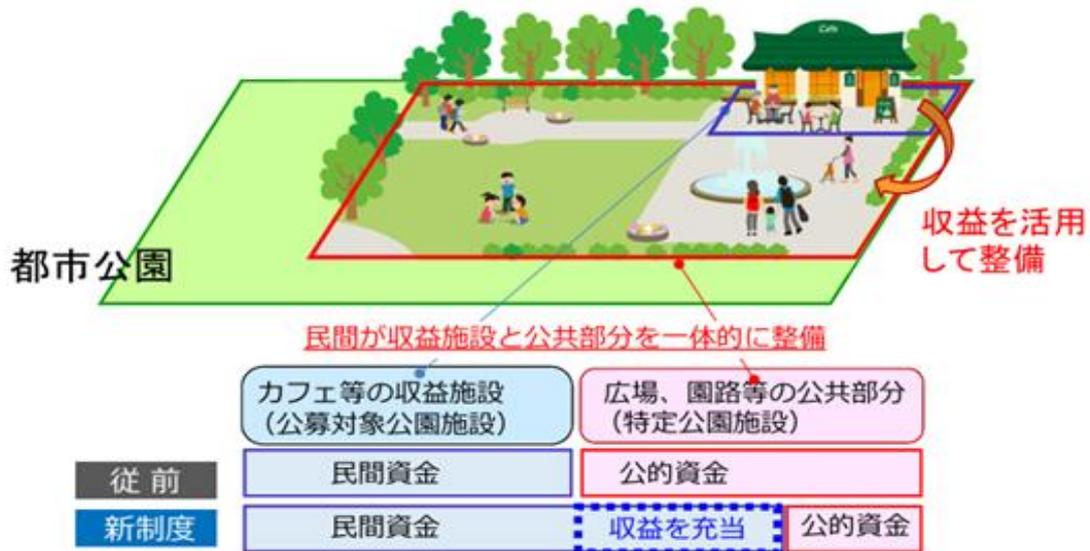
(2) 岡谷湖畔公園における Park-PFI の活用

諏訪湖周の岡谷湖畔公園を、これまでの市民対象の公園から、市内外を含めて、より多くの人々が訪れて楽しむことができる「人を呼び込む(魅力ある)公園」とするために、河川法が定める範囲において、Park-PFI による公園施設の設置または管理を行う民間事業者の公募による選定

【Park-PFI (公募設置管理許可制度) とは】

平成 29 年の都市公園法改正により創設され、都市公園において、飲食店、売店等の公園施設の設置または管理を行う民間事業者を公募により選定する制度。事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、設置管理許可期間の延長や建蔽率の増加等の都市公園法の特例処置等の適用が可能。

【Park-PFI の概要】



【特例処置】

- ① 都市公園法の特例措置：最長 10 年⇒ 20 年まで延長可
- ② 建ぺい率：通常 2%⇒対象施設は 10%まで条例化が可能
- ③ 占用物件：看板・広告塔の占用が可能

【Park-PFI により促される効果】

- ・管理者…民間参加が容易になり、効果的・効率的な公園の再整備が可能
- ・事業者…長期的な戦略で公園の立地環境を活用したビジネス展開が可能
- ・利用者…公園の利便性向上と公園周辺を含めたエリアの魅力向上が可能

<参考事例> 郊外都市公園を活用した各種ツーリズム

(1) ペットツーリズム

ペットツーリズムとは、飼い主が犬や猫などのペットと共に旅行することであり、それに伴う旅行業、観光事業などの環境を包括した概念を指します。移動、宿泊、食事、観光などがペットとともにできるような環境整備を推進することにより利用者の利便性向上とビジネスの発展、飼い主のマナーやモラルの啓発などを目的とする。

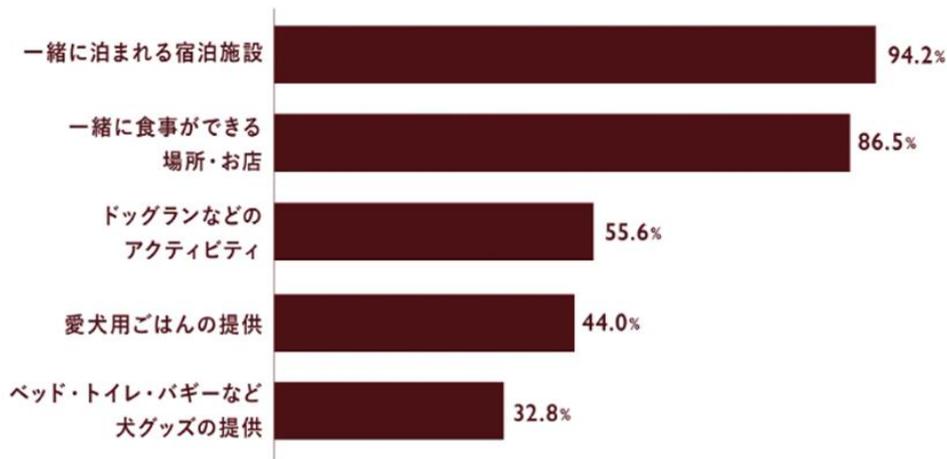
岡谷市においても、ペットを同伴できる飲食店をはじめとしたマップ等の情報提供もなく、郊外都市公園施設は全般的に受け入れ体制が不十分であり、今後、そうした需要が益々高まってくるものと考えます。

愛犬との旅行で欲しいサービスは「一緒に泊まれる宿泊施設」「一緒に食事ができる場所・お店」の2つが圧倒的多数。一緒にできることを重視する傾向。

「ペットツーリズムに関する実態調査」より (株) バイオフィリア提供



旅行先でどんなサービスがあるといいですか? (上位5項目 n=975 複数回答あり)



鳥取県ペットツーリズム協議会作成のピクトグラム

(2) ウェルネス（保養型）ツーリズム

- ・「ストレス社会」とも呼ばれる現代社会で、多くの人々が目に見えないストレスを抱えて、「心の病」に悩んでいます。その要因は、管理社会、競争社会、高齢化社会による孤独など様々ですが、昨今は「テクノストレス症候群」と呼ばれるデジタル社会化の進展による新たなストレスが生じていると言われています。
- ・テクノストレスの解消方法として注目されているのが、森林浴や温泉を取り入れたウェルネスツーリズム（保養型観光）です。これらは、都会の喧騒を離れ、自然の中で心身をリフレッシュする手段として多くの人々から高い支持があります。森林資源と温泉の組み合わせは、観光産業における付加価値を高める重要な要素であり、地域経済の活性化にも寄与する可能性が高いと言えます。

①森林セラピーのプログラム開発

専門ガイドが案内する森林セラピーは、都市住民の癒しと健康促進に役立ちます。地元食材を使った食事やリラクゼーションを組み合わせ、季節ごとの魅力を伝える体験型プログラムが重要です。

②空き家活用の宿泊施設

再生した空き家をおしゃれな宿泊施設として活用し、地域の生活を体感できる場を提供。デザイン性と快適さを重視し、長期滞在による地域経済活性化を目指します。

③観光資源と森林浴のパッケージ提供

地域の歴史や文化、アクティビティを森林浴や温泉と組み合わせ、多様なニーズに応じた一貫性ある観光プランを提供します。

④デジタルデトックスの提供

スマートフォンやPCから離れるデジタルデトックスは、自然環境を活用し心身のリフレッシュを図る有効な方法で、長期滞在型観光に最適です。

⑤健康とウェルネスプログラム

デトックス、ヨガ、瞑想などの健康プログラムを提供し、長期滞在中の健康改善をサポート。寺社の宿坊との連携も可能性があります。

これらの戦略により長期滞在型保養観光は地域活性化とリピーターの獲得に貢献します。「第2のふるさと探し」や「心身のリフレッシュ」が目的のツーリズム需要が急速に高まっており、「癒し」と「リフレッシュ（再生）」を訴求する効果的なマーケティングが不可欠になります。最も重要なのは、訪問者に長期滞在を促し、地域の自然や文化を十分に体感できる「滞在環境（第2の我が家）」を整えることです。

既存のホテルや旅館とは異なり、空き家を再生させた「おしゃれな戸建て宿泊施設」は、他の宿泊客に迷惑が及ぶことがないので、格安で、気兼ねなくペットと滞在することもでき、心の病を抱えていてもマイペースでじっくり療養することができます。

岡谷市は保養型観光における地域資源の宝庫であり、ウェルネスツーリズムの実現に向けて、より具体的で魅力的な取り組みが求められています。

(3) バードウォッチングツーリズム

岡谷市では、昭和 29 年 (1954 年) から「塩嶺小鳥バス」が運行されています。令和元年 (2019 年) までは 5 月と 6 月に開催され、翌令和 2 年 (2020 年) はコロナ禍で中止、令和 3 年 (2021 年) 以降は 5 月のみ開催となっていますが、根強い人気を誇っています。

また、冬季には諏訪湖にコハクチョウをはじめとする渡り鳥が多く飛来し、渡り鳥のほかに、カルガモ、カワウ、サギ類などの留鳥も観察できます。

塩嶺御野立公園や岡谷湖畔公園に観光客を呼び込むためには、四季折々を通じた「通年バードウォッチングのまち」として認知度を上げる必要があります。

以前、諏訪湖ハイツ前の湖岸付近は、野鳥の会によるエサやりを目当てに鳥が集まり、冬季の水鳥を観察するスポットとして最適でしたが、現在は道路付近に柵が設けられて水辺に降りることができなくなっていることが残念でなりません。県の許可や協力を得て、以前のように水辺に近づける安全な観察エリアを新たに整備することを考えるべきです。

また、塩嶺御野立公園には里山のバードウォッチングスポットを設置して、森林浴やウォーキングなどが楽しめる場所として、もっと積極的に情報発信すべきです。



2007 年 12 月撮影
コハクチョウのほか、オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロなどが間近で見られました。

.....

岡谷市の観光振興を考えるうえで最大の弱点は、冬の観光客が極端に減少してしまうことにあります。「冬季観光」の振興策を幅広く議論し、冬でも楽しめるパッケージツアーのアイデアを蓄積していく必要があります。

アイスアリーナにおけるプロスケーターのショービジネス、スノーボードやそり遊びが楽しめる運動公園の整備、冬季に湖畔の景色を楽しむホットスポットの設置など、冬のツーリズムをもっと考える必要があります。

提言3 天竜川流域における広域連携の推進

1 天竜川しなのサミットの開催

(1) 現状

天竜川は、長野県から愛知県・静岡県を経て太平洋へ注ぐ一級河川であり、幹川流路延長は214 km、流域面積は5,090k m²です。天竜川流域にある長野県の岡谷市・伊那市・駒ヶ根市・飯田市の4市は、かつては長野県の南信地方として同じブロックとしての関係を保持してきましたが、昨今ではその関係や交流自体が希薄になっています。

「天竜川の始発点のまち」という地域ブランドの重要性について、岡谷市が持つ重要な地域資源には諏訪湖と天竜川があるのは周知のとおりです。また、全国的に見ても、湖沼・河川の知名度ランキングにおいて、諏訪湖と天竜川は常に上位に入っている状況です。

しかも、諏訪湖から流れ出る川は天竜川だけであるという事実は大きなポイントであり、「岡谷市が天竜川の始発点である」ということが地域ブランドとして重要な役割を果たしています。「諏訪湖から流れ出る川は唯一天竜川だけであり、その天竜川の始発点が岡谷市である」ことは、たとえ岡谷市を知らない人でも、岡谷市の名前と位置を理解して覚えてもらうことができ、それを積極的に活用していくことは極めて重要です。

(2) 天竜川流域観光圏の創出

「天竜川の始発点のまち」という地域ブランドの重要性について、岡谷市が持つ重要な地域資源には諏訪湖と天竜川があるのは周知のとおりです。また、全国的に見ても、湖沼・河川の知名度ランキングにおいて、諏訪湖と天竜川は常に上位に入っている状況です。

しかも、諏訪湖から流れ出る川は天竜川だけであるという事実は大きなポイントであり、「岡谷市が天竜川の始発点である」ということが地域ブランドとして重要な役割を果たしています。「諏訪湖から流れ出る川は唯一天竜川だけであり、その天竜川の始発点が岡谷市である」ことは、たとえ岡谷市を知らない人でも、岡谷市の名前と位置を理解して覚えてもらうことができ、それを積極的に活用していくことは極めて重要です。

これまでは、長野県全体の観光産業は、東京を中心とした関東圏を主なマーケットとして捉えて様々な取り組みを行なってきました。しかし、これからは近い将来に予定されているリニア中央新幹線の間駅となる飯田駅の開業や三遠南信自動車道の開通による交通インフラの整備に伴って、中京圏や関西圏および東海地方に向けた交流の窓口が開かれることとなります。今後、長野県の観光はこれまで以上に、全国的かつ世界的な観光客の誘客に向けた対応が必要になってくることが予想されます。

長野県の地理的条件を俯瞰したとき、岡谷から伊那谷を通して飯田に至る新しい「観光名所ゾーン」、天竜川流域の市町村の連携による「天竜川流域観光圏」を創出することは、今後予想される中京圏や関西圏からの観光による人の流れを呼び込む上で極めて重要です。

長野県全体の観光産業の振興に向けても大きなポテンシャルが持っていることから、それぞれの観光資源を相互に連携して活用していくことが必要になっています。例えば、サイクリングを一つの切り口とすると、諏訪湖周のサイクリングロードから天竜川に沿って南下し、天竜川流域のサイクリングロードを渡り歩くような観光コースづくりが構想されます。

(3) 4地域の観光資源

- ・諏訪地域 : 諏訪湖や諏訪大社を中心とした歴史と文化
- ・伊那地域 : 天竜川や高遠城址公園の四季を通じた自然
- ・駒ヶ根地域 : 中央アルプスの駒ヶ岳や千畳敷きカール等の山岳観光
- ・飯田地域 : 天竜ライン下りや天龍峡など天竜川の名所旧跡観光

【提言事項】

(1) 「天竜川しなのサミット」の開催

「天竜川の始発点のまち・岡谷」の知名度向上による地域ブランドの強化と産業・経済・教育・スポーツ・文化・芸術等の様々な分野での交流により互いに発展する契機とすることを目的に、天竜川沿いの4市（岡谷市・伊那市・駒ヶ根市・飯田市）が集う「天竜川しなのサミット」の定期的な開催

- ・隔年あるいは4年に一度ぐらいの頻度での「天竜川しなのサミット」の開催
- ・小中学生、高校生による音楽祭やスポーツ大会や高齢者の集い等による交流
- ・天竜川サイクリング、天竜川駅伝、天竜川マラソン等の大会やイベントの開催



(2024年10月撮影)

5 おわりに

本提言書では、諏訪湖周辺の豊かな自然資源や観光資源を最大限に活かし、地域の観光を振興するための取り組みについて、様々な観点から考察して来ました。

今回は、諏訪湖サイクリングロードを基点とした「サイクルツーリズムの推進」、岡谷湖畔公園や塩嶺御野立公園など「郊外都市公園の積極的活用」、天竜川流域における広域連携として「天竜川しなのサミットの提案」の3つを主な政策提言としました。

岡谷市の地域資源である諏訪湖の水辺や里山や天竜川を多目的に活用し、サイクリングロードの整備といったインフラの活用、岡谷湖畔公園・塩嶺御野立公園における森林セラピーやボードウォッチングなどの自然体験、そして温泉療養など、心身の健康増進と癒しの場を提供する要素を組み合わせることで、訪れる人々に多様な価値と体験を提供する観光地の新モデルとしての成長が期待されます。

地域資源を活かした観光施策は、経済的な観点からも地域に大きな影響を与えます。観光客の増加は、地域内の消費拡大や雇用機会の創出につながり、地域経済の底上げを図る手段となります。このようなサステナブル（持続可能）な観光振興は、地域における経済効果を長期的に確保することに繋がります。

諏訪湖と天竜川とその周辺地域は、自然の美しさと豊かな歴史・文化が調和した独自の魅力を持っています。水辺のアクティビティや森林での癒し体験、公園の憩いの場としての機能など、多彩な観光資源が相互に連携することで、訪れる人々にとって「心身をリセットする場所」としての価値を提供し、リピーターや新規の観光客を惹きつけることができるはずです。

サイクリングや森林浴や温泉療養などの健康促進を目的とした観光は、現代のライフスタイルに即した新しい観光需要を喚起する可能性を秘めています。

また、飯田市にリニア新幹線の駅ができることを見越したうえで、天竜川流域の関係市町村が連携し、新たな「天竜川流域観光圏」を創出できるチャンスが訪れていることも視野に入れた観光振興に挑戦すべき時でもあります。こうした一連の取り組みは、地元住民の誇りと自信を醸成することにもなるはずです。

今後も、地域の特性を最大限に活かしながら、多様な関係者が協力し、持続可能な観光地づくりを進めていくことで、岡谷市はさらなる発展を遂げ、魅力的な観光地としての新たな地位を確立できるものと思います。この先も未来を見据えた地域資源を活用した観光の在り方を追求し、地域の持続可能な成長に寄与することを願っています。

岡谷市議会	産業建設委員会
委員長	渡辺 太郎
副委員長	藤森 弘
委員	中島 秀明
〃	笠原征三郎
〃	酒井 和彦
〃	丸山 善行

